島根原子力発電所周辺 環境放射線等調査結果

平成20年 1月～3月

島根県では、地域住民の皆様の安全確保及び環境の保全を図るため、環境放射線等の調査を行っています。

今期の調査結果を検討・評価したところ、**異常は認められませんでした。**

島根県環境放射線情報システム　24時間連続監視

島根県では、発電所から放出される放射性物質の影響を監視するため、発電所周辺の11ヵ所にモニタリングステーション・モニタリングポストを設置しています。各測定地点で観測された2分毎の最新データを専用回線で送り、島根県原子力環境センターで24時間休みなく集中監視をしています。

情報は、ホームページでリアルタイムに県民の皆さんに公開しています。

2分毎に観測データを送信

■ 雨や雪が降ると、なぜ空間放射線量が増える？

大気中に漂っている天然放射性物質が雨などと一緒に地上に降ってくるからです。ただし、時間とともに消えていき、しばらくすると元の値に戻ります。

■ 放射線量の単位は？

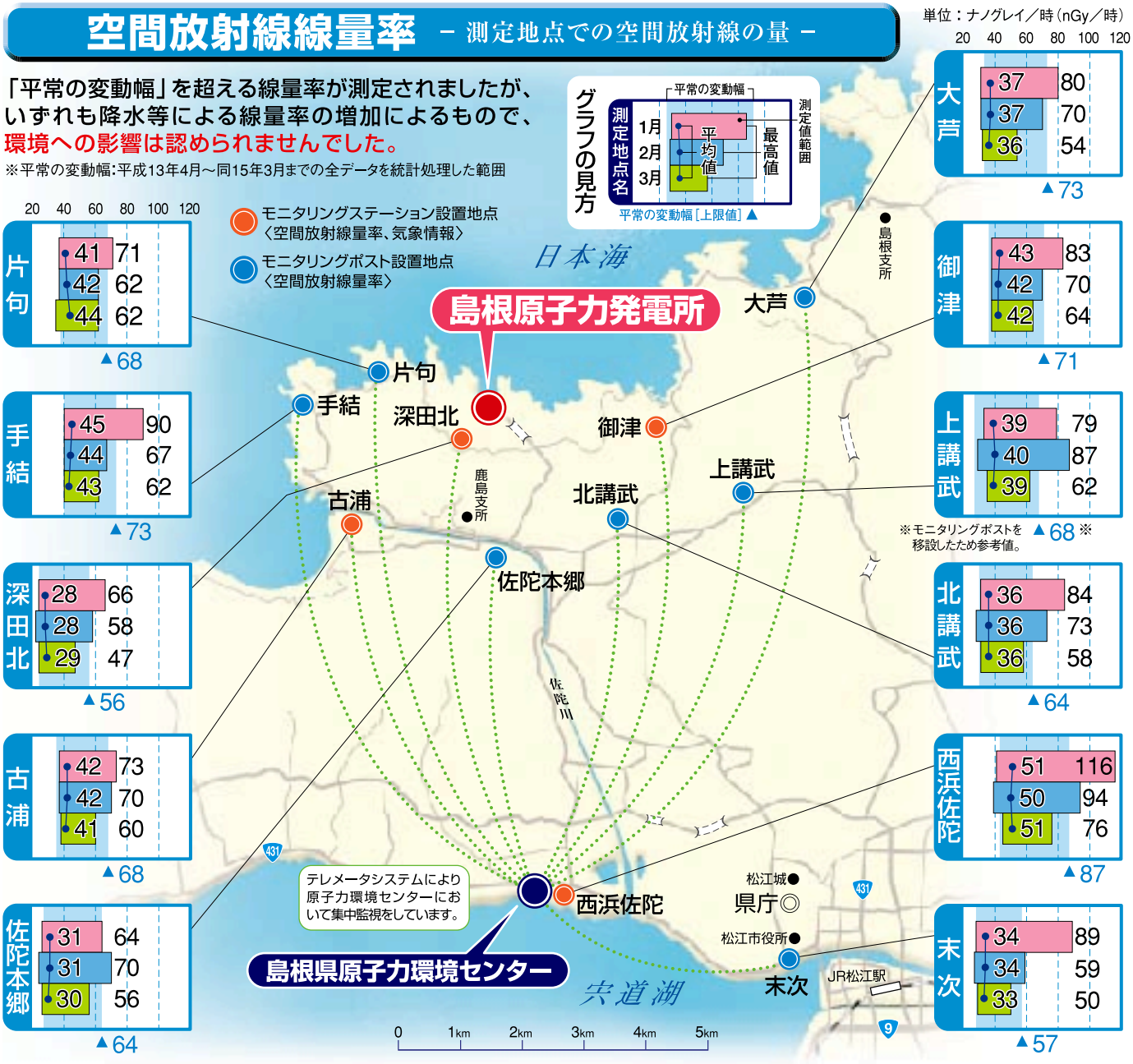
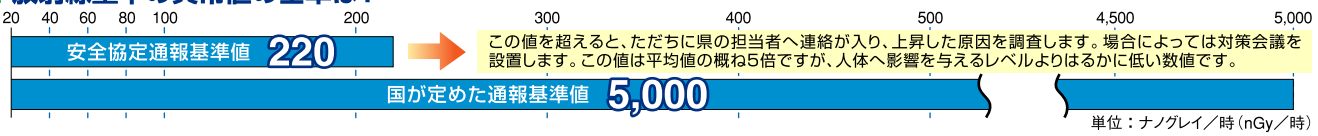
環境中の放射線量を表す場合は「nGy（ナノグレイ）」などを用います。

●1ナノグレイ＝1000分の1マイクログレイ＝100万分の1ミリグレイ＝10億分の1グレイ

空間放射線線量率 － 測定地点での空間放射線の量 －

「平常の変動幅」を超える線量率が測定されましたが、いずれも降水等による線量率の増加によるもので、環境への影響は認められませんでした。

※平常の変動幅：平成13年4月～同15年3月までの全データを統計処理した範囲



■ 放射線量率の異常値の基準は？